

第41号
平成26年11月1日
発行
「市民活動情報紙
なると」編集委員会

市民活動 情報紙なると

鳴門市ボランティアセンター
鳴門市ボランティア連絡協議会
☎ 088-685-7170
鳴門市市民協働推進課
☎ 088-684-1200

「渦潮ふれあい館」が10月1日 オープンしました。

～誰もが気軽に寄り合い、触れあえる、ぬくもりのある拠点づくりを目指して～



平成26年10月1日より、旧南浜児童館が、『渦潮ふれあい館』として、リニューアルオープンしました。施設の名称は地域の住民が集まり、知恵を出しあい、また、意見交換する中で、末ながく、地域住民のみなさんに親んでもらえるようにとの願いをこめて名づけられたものです。

オープンした『渦潮ふれあい館』

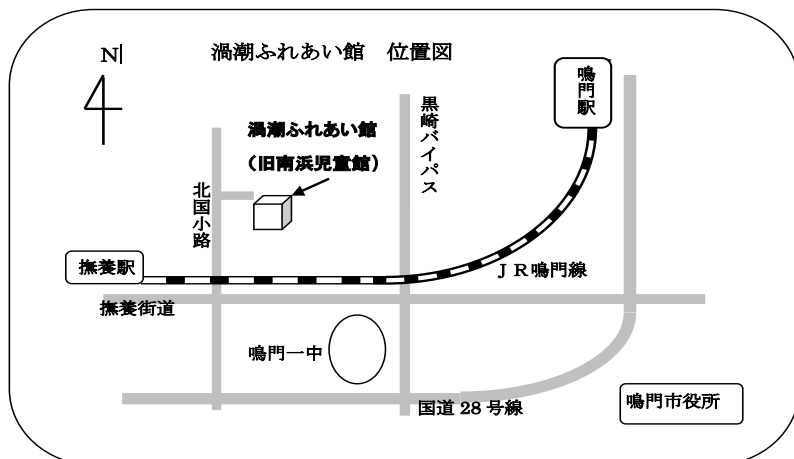
同館は、中央地区自治振興会が主催するさまざまなイベントや集会、会議などに活用されるほか、日常的に人々が集まり、おしゃべりしながら、お茶を飲み、また軽い運動や、カラオケなどもできます。サロンのな活用も視野に入れたユニークな施設づくりも、住民自らの手づくりにより取り組まれています。オープンにあわせ、地域の住民のみなさんから家庭にあった健康器具やマッサージ機器などが持ち寄せられ、軽い運動やリクライニングができる環境整備も進められてきました。誰もが気軽に寄り合い、語り合える、地域に開かれた新たなコミュニティ形成の取組みとして、今、注目されています。

中央地区自治振興会 乾会長より

私が、自治会などのコミュニティ関係に関わった当時は、中央地区の自治会加入数は1,100世帯ぐらいありました。現在では800世帯台までと少なくなってきました。

人と人との関係が今よりも濃密で助け合いのコミュニティが存在した時代への回帰は望むべくもありませんが、程よい距離間でゆったりとした、けれどもぬくもりのある人と人のつながりが、今こそ求められているのだと思っています。「遠い親戚より近くの他人」という言葉にもあるように、『渦潮ふれあい館』を地域づくりの核として、新しい形のコミュニティを地道にゆっくりと紡ぎ直していきたいと考えています。

中央地区の人たちはもとより、他の地域の人やNPOなどの各種団体とも交流が図れる拠点としての活用も考えていますので、いつでもご相談をいただけたらと思っています。



問い合わせ先

中央地区自治振興会

乾 肇

☎ 088-686-2298

渦潮ふれあい館

☎ 088-685-1260



今年もまた「友好コスモス祭り」の季節がやってきました。鳴門市花街道・地域づくりネットワークのみなさんが、夏の暑い時期から、丹精込めて育て上げてきた友好コスモスの花が、鳴門の秋を彩り、散策に来る人、車窓から眺める人等多くの人たちを和ませ、そして元気を与えています。

「第20回リューネブルク市親善使節団友好コスモス交流事業」を終えて

鳴門市花街道・地域づくりネットワーク顧問 村元信江

この度「鳴門市・リューネブルク市姉妹都市盟約締結40周年記念事業」が盛大に実施されました。この機会に「花街道」の永年の実践歴の中で「友好コスモス運動」は、横断幕に書かれた「友情は永久に」の精神に基づいて続けられたものであることを書かせていただきます。

1. 「草の根運動のきっかけ」

振り返ってみますと、後年、私が花づくりを通じての地域づくりを考える萌芽は、約40年前のまだ現役の教員時代、キョーエイ鳴門駅前店（当時はジャスコ）の吉田さん達が 周辺の三角公園や道路沿線で行っていた雑草抜きや、木の剪定、花壇づくりなどの活動に触発されたことがきっかけです。

昭和59年、早期退職した私は、道路や公園の草抜きを日課としながら、徳島県・徳島県教育委員会主催の「男女共同参画講座」（年間10日）に知人を誘って3年間通いました。一緒に参加していた鳴門市の受講生たちと郡市別で独自に考えるテーマ設定に「だれもが生き生きと活躍できる地域づくり」を選びました。自分達で、できる地域づくりは何かをじっくりと考えるいい機会の場になりました。

そして、平成元年4月6日、実現可能な「花いっぱい運動」の全市的な広がりを願い、支えたいとの思いで「ボランティア支援の会」を同じ志を持つ仲間とともに発足し、4年後に開催される東四国国体を花の街で迎えたいと早速行動を開始しました。

資金はなかったものの、7箇所の畑の提供者と鳴門市婦人連合会役員のネットワークや、市広報、鳴門市社会福祉協議会の協力も得ながら、伝手を頼って阿波町へ挿し穂を貰いに通い続けての2年間。役割分担して5色のバーベナ挿し穂を畑で育てる人、その苗で花壇をつくる人と活動は急速に市内に広まって、荒れた雑草が花壇に変わる喜びとともに、花づくり関係者とネットワークの基礎が生まれました。私自身も苗場を兼ねた大型の見本花壇を旧市営球場前広場に地元の方と一緒につくりました。

2. 「次のステップ」国体後に向けて

そうした運動の過程で、高橋春枝さんご夫妻や森栄吉さん田淵豊さん達、板東の方にお会いする機会が重なるうち、ドイツとの交流の原点となっている板東俘虜収容所との関係を語る上で、コスモスの花が象徴的な花となっていることに気づきました。そこで、将来にわたり、鳴門市ならではの価値ある財産となりうる「友好コスモス」の栽培を皆さんに呼びかけるきっかけづくりになればとの想いで、平成4年度に訪独された矢野市長さんと山内さんにコスモスの種の交換をお願いして「友好コスモス交流」の第一歩を踏み出しました。それと並行して、「市の花」でありながら市民にほとんど知られていない「ハマボウ」普及を願い、苗づくりの教えを請うかたわら、東奔西走、試行錯誤が続きしました。

平成5年度の東四国国体では、市民の皆さんのご尽力で主会場として花が咲き誇る鳴門市に全国のお客様をお迎えできました。また、長年の花づくりに対しての功績が認められ、県コンクール最優秀賞、(右頁へ)

全国コンクール文部大臣奨励賞などを受賞する団体等も生まれ、お互いに切磋琢磨する雰囲気が出てきました。その中で、「支援の会」は育てた苗を提供しながら、各地に自前の花壇をつくって運動を広げるといふ水先案内人の役割も果たしてきました。

国体終了後は、熱心な団体やグループに連帯志向が高まり、支援の会を事務局団体として、「ハマボウ・コスモス栽培団体連絡会」という実行委員会を作り、従来の花づくりに加えて、協力しあって活動を進めようということになり、草の根運動として事務局団体の責任はますます大きくなりました。その間、支援の会は「平成6年度全国コンクール最優秀賞・環境庁長官賞、平成7年度全国最優秀賞・内閣総理大臣賞受賞」という栄誉ある受賞も賜りました。これは、「支援の会」だけのものではなく、同志の皆さんの熱意、チャレンジ徳島推進協議会等のご支援の賜物にほかなりません。

「友好コスモス運動」が急速に広がりを見せる中、平成7年には、「第九の森」の居上和子さん達によって手づくり幟で第1回の「友好コスモス接待所」が開設され、ほかにも、富田さん、堀江地区、大津地区、鳴門西地区、北灘地区、木津神地区や撫養町、他の各団体に、『地域活性剤本舗』の看板をかけたところが続出し、平成10年度より市内全域を会場とする「友好コスモス祭り」へと発展してきました。それと同時に、「友好コスモス祭り」の原点でもあるリューネブルク市とのコスモス交流にも各地が協力を惜しまず、お別れの際にも、水際公園を横断幕とコスモスで飾るならわしが長く続きました。

一方「ハマボウ運動」の方も、市民の力で平成10年には、ついに1万本植樹を達成することができ、市内のあちこちで黄色い花をつけ、平成11年度には、「ハマボウ月間」を制定して、「第1回ハマボウ祭り」が開催されるまでになりました。(厚生労働大臣賞受賞)

3. 「鳴門市花街道・地域づくりネットワーク」へ発展

平成12年度以降、運動のさらなる広域化と、環境問題を含めた事業内容へと拡大、自治振興会等と連携して「鳴門市花街道・地域づくりネットワーク」と改称する方向に進みました。

ネットワーク結成初年度に井形自治振興連合会会長に初代代表をお願いして以降、代表者も組織を運営するにふさわしい各団体代表の方につとめていただきましたが、花いっぱいコンクール等の応募に対しても、ネットワークの立場として参加することになりました。JR鳴門線で「コスモス列車」4往復2日間を2年間運行するなどの企画が成功したのも、沿線にコスモス街道が続く、ネットワークならではの成果のひとつでした。そうした今日までの活動が評価され、数々の受賞にも与ったところです。

鳴門市 花街道・地域づくりネットワーク関係の主な受賞一覧

その他の特記事項

受賞年(月日)	受賞名	
平成13・14・15年	徳島県花いっぱいコンクール優秀賞	平成15年度 ねんりんピックに協力 (鳴門市長表彰)
平成18年4月22日	みどりの愛護功労者国土交通大臣表彰	平成16年度 友好コスモス交流、中国 青島市も含めてトライアングル交流へ
平成19年6月4日	徳島県知事表彰	平成17年度 コスモス周遊バス市内一周
平成19年11月20日	地方自治法60周年記念総務大臣表彰	平成18年度 国民文化祭に協力 (鳴門市長表彰)
平成20年3月25日	徳島花の観光地づくり最優秀賞	平成26年度 緑の愛護のつとめ開催
平成20年8月7日	全国花の観光地づくり大賞フラワーリズム賞	鳴門市・リューネブルク市姉妹都市盟約 締結40周年 (鳴門市長感謝状)
平成22年11月2日	緑綬褒章	
平成26年5月24日	国土交通大臣表彰2団体、徳島県知事表彰10団体	

「継続は力なり」と申しますが、私たちの長年にわたる取組みが、鳴門市民の誇るべき精神文化の証と認められるまで成長し、未来に向かって歩いてゆけるのも、仲間のみなさんの郷土を愛する熱い思いと、意気を感じる損得抜き活動の賜物であり、運動を下支えしていただいたチャレンジ徳島推進協議会並びに、鳴門市の協働体制の成果として深く感謝申し上げます。

空き家を活用した地域の福祉のまちづくりを目指して

特定非営利活動法人 空き家バンクで福祉のまちづくりを考える会

理事長 太田 晴清

私たちの団体は、今日、社会問題化してきております「空き家」を地域の資産として活用することにより、地域の活性化と福祉のまちづくりに寄与することを目的として設立いたしました。これからの地域福祉を考える上で最重要課題となってきた児童、高齢者、障がい者などの福祉事業に、地域で眠っている資産である空き家を再活用することによって、福祉のまちづくりを今より、一歩でも前進させたいとの強い想いで、平成 25 年 2 月から活動をスタートしました。

私たちの団体の主たる活動としては、空き家を福祉のまちづくりに活用してほしいと考えている所有者と、一方、空き家を活用して福祉のまちづくりを進めていきたいと考えておられる方々にそれぞれ会員になってもらい、その両者を結び付け、連携調整を図っていくあっせん役ということになります。その他、空き家の適正な管理を行うことも業務のひとつとして事業展開をしていこうと考えています。

会の発足と同時に、まず私たちの活動を市民の皆様にも知ってもらうことから始めようと、活動内容を記したチラシとポスターを作成、配布するとともに、活動の内容をお知らせするホームページを立ち上げました。

また、福祉のまちづくりを進めるうえで必要となる基礎知識やノウハウを知っていただくためのセミナーも、市民の皆様や会員等に広く呼びかけ、キョーエイ鳴門駅前店カルチャールームにて開催いたしました。このセミナーにつきましては、今年度も引き続き実施することにしております。

今年度は特に、私たちの活動をこれまで以上に多くの人に知ってもらい、市民の皆様の理解と協力が一層得られることに軸足を置いて取り組みを進めているところです。

去る、7 月 25 日には、鳴門市自治振興連合会の会長会において、空き家に関する実態把握のためのアンケート調査の協力依頼をさせていただきました。その後、10 月に入ってから、いくつかの地区自治振興会より、再度の説明要請をいただき、地域に出向き、直接地域住民の方々に協力依頼をさせていただいております。今後とも、空き家に関する実態把握のためのアンケート調査につきましては、地域の方々の理解と協力をいただきながら進めていきたいと考えています。

最後に、私たちの地域社会において、今必要とされている福祉課題について記しておきたいと思えます。

まず児童に関する福祉課題については、今日の少子社会において子どもたちの健全育成を図る上から、失われてしまった環境をどのように再構築していくべきかの課題があります。

次に、高齢者についての福祉課題については、誰もが安心して暮らせる地域社会のありかたを地域住民の手でどのように作り上げるかという課題があります。

また、障害者にとっての福祉課題につきましては、生活基盤の基礎となります就労機会の確保を地域社会の中で、どのように作り上げていくのかという課題であります。

その他、地域福祉に関しては、今の社会を直視したとき、解決が求められている課題が山積しております。

私たちは常々、こうした空き家問題などをはじめとする社会的な政策課題を克服するためには、専門性を持った NPO と地域を熟知した地縁団体であるコミュニティ組織、また全体を把握できる行政が、それぞれの特性を活かしつつ、協働して取り組んでこそ、初めて解決への道筋が見えてくるのではないかと考えています。

牛歩の歩みかもしれませんが、こうした認識のもと、今後とも、事業展開をしまいたいと考えていますので、関係者の皆様には、今後ともご支援ご協力をいただけたらと思っています。

